

中学2年生 京都府立洛北高等学校附属中学校訪問研修

令和5年9月9日（土）、中学2年生の希望者による京都府立洛北高等学校附属中学校訪問を実施しました。当日は35名の生徒が参加し、朝7時に集合し、バスで京都へ向かいました。

午前中は、京都大学総合博物館を見学しました。ここは京都大学が開学以来100年以上にわたって収集してきた貴重な学術標本資料が多く展示されているだけでなく、休日などには、大学院生がそれぞれの研究分野に関連した子ども向けの対話型解説イベントのブースを出していたり、特別展に関わる研究者のミニ講演会があったりと、大変アカデミックな博物館です。生徒達も70分の滞在時間ではとても見聞きしきれなかったようですが、メモを取りながら興味を持って観覧していました。



そして午後は目的の京都府立洛北高等学校附属中学校へ行きました。京都府立洛北高等学校は創立150年を超える歴史があり、高志中・高よりも先に中高一貫となった学校です。

洛北中学校からも2年生が40名程度参加し、高志・洛北それぞれが2～3名ずつとなる混合グループを作って数学の課題に取り組みました。今回の課題は、前半は22種類の壁紙を「回転できるか」「鏡映軸があるか」などの視点で分類し、後半はそれを受けて分類した以外の新たなパターンを作ると、いう課題でした。最初こそ初対面ということで緊張した様子が見られましたが、普段の授業とは違う課題に試行錯誤する中で、積極的に交流が進んでいきました。



生徒からは「自分にはなかった視点を新たに見つけることができ、考えを言い合うことができ良かった」「同世代の生徒と協力し課題に取り組むことで、チームワークやコミュニケーションの大切さを学ぶことができた」「一人一人いろんなアイデアを持っていて、そのアイデアを共有しながら新しい答えを導き出すことができた」「考えるということが無我夢中になってできた」といった感想が聞かれました。



今回の交流は本年度新規の事業で、洛北の先生方には大変お骨折りいただくことになりましたが、生徒達にとっては中学校生活の折り返しとなるこの時期に、視野を広げ、改めて発憤する大変良い刺激となりました。

これをきっかけに、積極的に自分から学び深めるという姿勢を更に培って行ってほしいと思います。